

児童生徒指導部会

1 研究テーマ

不登校の未然防止、早期発見にチーム学校としてどのように取り組むか

- ・不登校対応の現状と課題について、様々な角度からの実態把握と検証
- ・未然防止、早期発見のための教育実践とその検証、考察



2 研究の取組

(1) 不登校の要因やその対応に関する情報収集

① 小中学校の先生方への聞き取りの実施

- ア 不登校の要因についての調査
- イ 学校復帰に繋がった支援の事例の収集



② 各機関等における現地研修

- ア 適応指導教室やこどもサポートセンター、県南児童相談所の見学と講話
- イ 中高生徒指導部会への参加

③ 中1ギャップについて、児童生徒自身の意識の把握

小学校6年生と中学校1年生に、中1ギャップへの聞き取り調査を実施。



(2) SCと連携した取組

① SCの専門性を生かしたアプローチ

- ア 児童生徒の実態把握（Q-Uテスト、算数数学計算力アセスメントテスト、自己有用感テスト、SCによる観察やカウンセリング）
- イ 心理療法を取り入れた学級経営（内観療法、☆私の感情グラフ）
- ウ 授業や行事における連携

（☆ABC理論、☆アサーション、☆エゴグラム、☆ストレスへの対処法、☆トラストアクションなど）

② 居がいのある学級づくり、小中学校間における連携

3 成果（○）と課題（△）

- 他機関の業務内容を知り、学校だけで問題を抱えるのではなく、他機関と連携することの重要性を学ぶことができた。
- 中1ギャップについて、児童生徒の思いを直接聞くことができ、改めて小学校と中学校の環境の違いを感じることができた。特に、教師と生徒、先輩と後輩等の周囲との関係性の違い、小中での時間の流れの違い、学習面での悩み等の実態を把握できた。
- SCと連携したことにより、新たな視点での児童生徒の見取りができるようになったことで、支援が必要な児童生徒に、さらに手厚い支援ができ、見落としとしてしまいそうな児童生徒へも気づくことができた。
- △ 各取組が子どもたちに対しどのような効果があるのかを検証し、改善そして実践していくことが必要である。